

料金後納



ゆうメール

ニュース

コトブキNEWS

～2021.8月号～



株式会社
コトブキホームビルダー

皆様こんにちは。

今年最大のイベントは、オリンピックでしたね。コロナ禍で開催され、TVで観られた方、実際に観られた方、記憶に残るものになったと思います。

さて、お盆という言葉はもともとサンスクリット語(古代インド)のウランバーナを^{うらぼん}盂蘭盆と音訳したものを略し、それに敬語の「お」を付けたもので、本来は「倒懸」、^{とうけん}非常な苦しみという意味があります。古代の中国語やシルクロードの国々で、この倒懸を受けている死者を救いたいという願いを込めて、営まれたのがお盆の始まりといわれています。日本ではお盆は、^{みたま}御魂祭り、^{しょうりょう}精霊祭り等ともいい、亡き父母をはじめ祖先の徳に感謝して、恩恵の心を持って供養を営む行事となっています。期間は、7月13～16日までが一般的ですが、月遅れ盆といって8月13～16日まで行われるところもあります。お盆の初めと終わりに、おがら(麻幹)を焚いて先祖の精霊を迎えまた送る風習があり、それを迎え火、送り火といいます。送る時に川や海に流すのを^{しょうりょう}精霊流し、^{とうろう}灯籠流しといいます。また、盆踊りは先祖の霊を慰める儀式でしたが、室町時代以降人々の娯楽要素が強くなりました。

今年も帰省が難しい中、近場の催しに参加されてもいいかもしれません。



【盆踊り】



【灯籠流し】

心あたたまる“いい話”第29回

～ 幸せな人生を歩む～

今回は、福島市にある経営コンサルタント事務所の所長：渡辺雅文さんのお話です。

昨年から続いている“コロナ禍”のせいで、自分を見つめ直す良い機会になりました。何か一つ、行動を起こす時にも「今、これが一番やりたいことなのか？」と自分に問いかけるようになった。なぜなら・・・いつコロナに感染して死んでしまうかもしれないからです。だからこそ「命」「時間」「人生」ということを、今まで以上に考えるようになりました。

私は、若い頃に「人は何のために生きているのだろう？」「人の生きる目的って何だろう？」と考えた時期がありました。その後、善師・善友や良書との出会いにより、それは「人や社会の役に立ち、幸せな人生を歩むため」ではないかと思うようになりました。

すなわち、**自分自身の存在価値は“誰かの役に立つこと”**であり、**生きる目的は“幸せな人生を歩むこと”**であると自分なりに定義づけたのです。そして幸せな人生とは何かを考えていたとき、二十世紀最大の心理学者といわれたユングの「幸せの五条件」に出会いました。

「幸せの五条件」の一つ目は何ととっても**“健康である”**こと
二つ目は**“生活に困らないだけのお金がある”**こと
三つ目は**“精神的に安定していて、美しいものを美しいと感じる心を持っている”**こと
四つ目は**“良き人間関係に恵まれている”**こと
五つ目は**“朝起きたときにやるべき仕事があり、それに生き甲斐を持っている”** というものです。
私は、この「幸せの五条件」がずっと腑に落ちたことを覚えています。



特に、このころは私がまだ若い時だったので、これからの仕事においても、プライベートにおいても、良き人間関係や人脈に恵まれるということはとても大切なことだと考えるようになりました。

そこで、**良き人間関係や人脈に恵まれているような方々**を観察していると**みんな、人に好かれる人柄を身につけている**ことがわかりました。**それは“笑顔が素敵でよく気のつく人”“心配りのできる人”**たちでした。すなわち、**自然に利他の行為ができる方々**です。

そこで、人に好かれるというのは“能力”であると確信するようになりました。
また、**彼らは向上心や自己成長欲求が高く、身銭を切って自己啓発に取り組んでいて、早起き・早出社、整理・整頓ぐせ、出会った方やお世話になった方々へのハガキ書きなどをマメに実践する良い生活習慣を身につけていました。**
私自身も、ハガキ書きなどを**真似するようにしてみたら**、お陰様で**良縁に恵まれるよう**になりました。

幸せな人生を歩むには、良き人間関係や人脈に恵まれている方々の“良いところや良い生活習慣”を学び真似してみることが大切ではないかと思えます。学ぶとは真似するところから始まるのではないのでしょうか。

共に幸せな人生を歩んでまいりましょう。

(記：眞鍋)

相続相談室

今回のテーマ < 増改築と住宅取得資金贈与について >

Q 私名義の自宅に両親が同居することとなり、増築を検討しています。増築資金は父が負担するようになりますが、税務上の問題は生じるでしょうか。

A 建物を増築する場合、法律上その増築部分の所有権は既存建物の所有者が取得するものと取り扱われるため、留意しなければなりません。

つまり、お父様が負担する資金により、ご相談者の建物の価値が増加することになりますので、お父様からご相談者への贈与となります。

そのため、贈与税を避けるには、ご相談者が所有する増築前の建物の時価とお父様が負担する増築費用に応じて、自宅建物の持分を変更する必要があります。

増築前の建物の時価が 1,000 万円であり、増築費用が 1,000 万円の場合、ご相談者とお父様の持分が2分の1ずつとなるよう、登記を変更します。その際ご相談者は移転する持分を譲渡したものととして、取り扱われることとなりますが、譲渡収入が発生する一方で増築部分の取得費も発生することから、譲渡所得が生じないケースが大半です。

仮に、譲渡所得が生じる場合には、親族間の譲渡に該当するため 3,000 万円特別控除などの居住用の特例が適用されませんので、ご注意ください。

ところで、ご質問のような場合には、住宅取得資金贈与の非課税特例を考慮されても良いでしょう。この場合、お父様が増築費用を直接負担するのではなくその資金を住宅取得資金として一旦ご相談者へ贈与しご相談者名義で増築することとなります。

増築であっても、住宅取得資金贈与の非課税特例を受けることができますので、相続税対策といった観点も含めて、検討されてはいかがでしょうか。

《東京メトロポリタン税理士法人 税理士：樋口智勇》

※本文で紹介させていただいた内容は、概略となります。詳細につきましては、税務署または税理士等の専門家にご確認ください。

日本語を学ぶ

40年も前に『日本語がわかる本』という本があり、
現在読んでも新鮮です。
その中から抜粋してご紹介いたします。

第3回目も知って楽しいことばのルーツです。

普段、私たちが何気なく使っている言葉も、どのようにしてこのことばが生まれたのか歴史のルーツを探ってみましょう。

◎村八分

広辞苑によれば「村民に規約違反などの行為があった時、村全体が申し合わせによって、その該当の家との交際や取引等をすべて絶つという私刑的な慣習」とありますが、現在では単に「仲間はずれ」という意味でも使われています。

語源は、村の十の交際のうち八つは援助も見舞いもしない、ということにあります。

ちなみに十の交際とは①冠、②婚、③葬、④建築、⑤火事、⑥病気、⑦水害、⑧旅行、⑨出産、⑩年忌のことで、このうち葬式と火事を除いてはいっさいかわらないというわけです。

◎打ち合わせる

仕事の上で欠かせないことばとなっています。意味は「前もって相談しておくこと」ですが、ルーツは「雅楽の合奏」をすることからきています。雅楽の管弦合奏などをするには、笛やヒチリキ、笙などと打ち物（太鼓や鉦）とのイキが合わねばうまくいきません。つまり、音合わせが必要なわけです。あくまでイキを合わせることを「打合せ」の目的であり、かたくなに自分の意見を押し通そうとするのは、本来の意味からはずれています。

◎花道

華やかな栄光の道を表す、この言葉は歌舞伎や相撲の見物席の間につくられている通路からきています。

これをなぜ「花道」というかといえば、歌舞伎と相撲が全盛をきわめた江戸中期、観客が最頂の役者や力士に思い思いの花を贈るためにつくられたからです。

また相撲の「花道」は節会相撲で力士が髪に花を飾って登場したからだとも、文字通り道の両側に花を飾ったからだとも言われています。いずれにしる「花道」という言葉には、晴れがましい雰囲気を感じます。

◎下馬評

責任のないところであれこれと評すること、あるいはその評判を称して「下馬評」といいます。もとは、城門などの下馬先（ここで馬から降りて徒歩で行く）で、大名・旗本たちが登場した後、お供の侍やかごかき連中が、待合所で退屈しのぎにする定評（うわさ話）からきたとされています。

どんな話かといえば、お役人の異動とか大名の国替えなど、さまざまな想像を加えたものだったそうです。

そこから、当事者以外の人たちが、事情も知らないのに、あれこれ推量することを「下馬評」というようになった、といわれています。



コトブキホームビルダーでは、注文住宅や事業用住宅、集合住宅など、お住まいの事なら全て対応可能です。お気軽に問合せください。



また、不動産のことでしたらグループ会社のコトブキホームセンターで、ご相談を承ります。



お気軽にお問い合わせ・ご相談ください！

ホームページ コトブキホームビルダー

http://www.kotobuki-hb.jp/

0120-37-5106

【受付時間】9:00~18:00（定休日：水曜日）



株式会社

コトブキホームビルダー

所在地：東京都目黒区目黒本町5-7-15

